

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立三郷特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元氣な学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 教育支援プランA（個別的教育支援計画）及び同B（個別の指導計画）に基づく専門性の高い授業の実践 2 地域に開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター的機能の発揮 3 キャリア教育の観点に基づいた進路指導の充実 4 安心・安全・信頼を柱とする学校教育環境の充実
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 （ 2 月 1 2 日 現 在 ）		実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 2 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	児童・生徒個々の合理的配慮を踏まえた教育計画・実践について、保護者との連携を深めていく必要がある。そのため、教育支援プランA・Bをわかりやすい書式に一部修正した。また、授業研究や事例研究を通して授業改善を進めている。	・教育支援プランA・Bのもとで、継続した授業改善を行う。	①教育支援プランA・Bにおいて、個々の合理的配慮について保護者と合意形成を図り障害特性を踏まえた教育活動を行う。(継続) ②児童・生徒一人一人を大切に授業(個に応じた目標、目標に合った手だて・指導内容、的確な評価)について、授業研究・授業実践や指導法の研究等を通して授業改善を行う。	①プランA・Bにおいて、個々の合理的配慮について保護者と合意形成を図り作成・反映、障害特性を踏まえた教育活動ができたか。(継続) ②学部研修会や自主研修を計画的に実施するとともに、実践や研修・検討を通じて授業(個に応じた目標、目標に合った手だて・指導内容、的確な評価)改善ができたか。	保護者と合理的配慮について合意形成のもとプランA・Bを作成することができた。 ①保護者アンケート、面談を通して障害特性を踏まえた授業実践をすることができた。 ②全体研修会、学部研修会に加え各学部の授業実践の合同交流会を行い授業改善につなげることができた。	A	・支援プランに基づいた教育活動の充実に向け、児童・生徒個々の適切な実態把握、障害特性を踏まえた適切な指導を実践するため専門性の向上に取り組んでいく。 ・今年度の授業改善を次年度につなげていくとともに引き継ぐとともに新学習指導要領に基づいた授業づくり、指導法、評価について取り組んでいく。	障害特性に合わせたグループ編成など、改善点が児童生徒の成長に繋がる部分があった。また、教員が生活年齢に応じた接し方をしており、成長に繋がった。プランAやB、授業内容に関しては、学校の核となるものなので、更なる充実に力を入れて欲しい。教員の質の向上は常に課題となるため、日々の研修も大切である。
2	昨年度ホームページを見やすくするように改善したため、今年度は見やすいホームページを定着させるとともに内容を充実させていく。地域の特別支援教育に関する相談に応じ、センター的機能を充分に果たしてきている。さらに地域の行事に参加する等地域との連携を深め本校の活動を広く紹介し、開かれた学校づくりを推進する。	・ホームページによる情報提供を積極的に行う。 ・開かれた学校づくりを推進するため、学校を公開する。(継続)	①昨年度改善したホームページを定着させ、新しい情報が掲載されるよう週2回以上の更新をしていく。 ②地元三市の広報に学校公開等の情報を載せ地域の方々に周知する。(継続) ③地域の行事等に積極的に参加する。	①タイムリーな内容を週2回以上更新をすることができたか。 ②三市の広報誌等に掲載することにより参加者数が増えたか。(継続) ③地域との連携を深めることで参加者が増えたか。	開かれた学校づくりを推進することができた。 ①ホームページを週2回以上更新し新しい情報を掲載することができた。 ②三市の広報誌に学校公開の情報を掲載することで学校公開は3回から2回に減ったが参加者数は昨年と同じであった。 ③運動会、文化祭のポスターを近隣4つのJRの駅に掲示した。見学者は昨年度よりも増えた。	A	・ホームページ等により情報発信はしているが、地域に伝わっていないという意見がある。発信だけでなく伝え方について検討していく。 ・地元三市の広報誌の活用やJRの駅等地域との連携を進めることができた。地域住民との連携をどう図っていくかが今後の課題である。	ホームページは分かりやすいと周囲から評価されている。センター的機能は地域の小学校や中学校からは非常に評価が高く、引き続き連携や協力を依頼された。外に向けたセンター的機能は分かりやすいが、内(保護者)に向けたセンター的機能をどう発揮していくかも大切であり、課題となる。
3	キャリア教育の観点に基づき、自立に向けた長期的な進路意識の育成を行っている。また、保護者への情報提供も随時行っている。昨年度スタートさせた、キャリア教育の視点に立った「進路に関する12年間の学習の流れ」を整理し実践するためのプロジェクトチームを継続し、平成31年度から実施していく。	・児童生徒の発達段階に応じた生きる力を、教育活動全般を通じて育成する。	①キャリア教育の観点に立ち、小学部から高等部を通じて系統的な自立と社会参加に向けた指導を整理し推進する。 ②保護者との連携を深めるために進路に関するニーズを収集、検討し、的確な情報を提供する。(継続)	①「12年間を見通した各学部の進路に関する学習の流れ」を整理し、自立と社会参加に向けた指導の実践が進められたか。 ②保護者が必要とする進路に関する情報を、適切に提供することができたか。(継続)	キャリア教育の観点に立った進路指導を進めることができた。 ①「12年間を見通した各学部の進路に関する学習の流れ」を整理し、平成31年度より自立と社会参加に向けた指導の充実に向けた準備ができた。 ②保護者への情報提供が進み、保護者アンケートによる肯定的意見が増えた。	A	・「12年間を見通した各学部の進路に関する学習の流れ」を支援プラン作成に活かし教育活動につなげていくとともに、実践を通して修正を行い使いやすいものにしていく。 ・肯定的な意見は増加したが、進路先となる事業所の実情についての情報提供の要望があるため検討していく。	進路指導は担当教員による部分が多く、負担も多い。詳細についてどの教員でも対応できることが理想だが、組織として機能することが大切。進路説明会は全校が対象のはずだが、参加数が少ない。保護者としても、施設の見学や説明会等の参加など、意識を高く持っていきたい。
4	引取り訓練などの災害訓練や、アレルギー対応のガイドラインが作成され、安心・安全の教育環境づくりが進んでいる。今後も様々な災害や事故等の状況を想定しながら、より実践的な活用方法を検討していく。	・安心・安全な教育環境づくりを進める。	①緊急メール配信システムについて保護者に周知し、登録していない場合は個々に登録を促し活用・拡大していく。 ②大規模災害を想定した訓練を実施し、計画的に備蓄品を整備する。	①緊急メールの活用について、保護者への理解を深め、登録した割合が増えたか。 ②学校で災害があった事を想定し備蓄品の補充ができたか。	避難訓練、引き取り訓練等を通じ災害時の対応について整備を進めることができた。 ①緊急メール登録した割合についてはわずかではあるが昨年度より増えた。 ②備蓄品の補充は進めることができたが、よりいっそうの補充が必要である。	B	・緊急メールの登録の割合は74%で昨年度(70%)よりやや増加した。登録していない家庭に登録を働きかけていく。 ・緊急時の備蓄品は、水、非常食の備蓄は進んでいる。簡易トイレ等の備蓄について検討していく。	PTAとしても、備蓄品の対応を考えている。生理用品や食料等を個々に用意することも視野に入れている。体罰等の研修会を工夫しながら行っているが、講師を呼ぶなども研修を深めるひとつとなる。

